

講演年月日 2006年1月11日(水)
講演者 原田隆史氏(慶應義塾大学文学部助教授)
テーマ デジタルデータの作成、蓄積と活用
講義内容

1. 情報発信のツールとしての Web ページの活用

図書館をめぐる昨今の厳しい状況において、情報発信ツールとしての Web ページは有効な手段である。HTML を書くためには、HTML に関する説明書(薄い物 6~7 ページ)を何度も読み、タグを 30 程度覚えるだけでも有効なページを作ることができるだろう。利用者に対しては、情報の更新頻度が高いことが最も大切である。

2. 図書館員が Web ページを作成・更新するための有効な手段

(1) CSS (Cascading Style Sheet)

CSS は、HTML 文書の見栄えを調整するなどの目的で Web ページのスタイルを内容とは別に指定できる仕組みである。この CSS を利用することで、図書館員は Web ページのデザインに労力をかけず、内容面の充実に力を注ぐことも可能になるだろう。たとえば CSS に関しては外注することも考えられる。

(2) XML

XML は、SGML から派生した記述言語でタグを自らできる仕組みである。定型フォーマットを取り扱う際にとっても便利。データを更新する際に XML 中の該当データを更新すれば即座に Web 情報を更新することができる点で、定型データを表示するのに適している。また、XML ファイルはエクセルで読むことが可能であるため、HTML などの知識がなくても定期的に更新することが容易である点も注目される。XML データを Web 上で表示する場合、XSLT を用いるなどの工夫が必要となるが、HTML を習得している人が XSL ファイルを書くことはそれほど困難ではない。

3. 利用者に対する Push 型情報提供の可能性

(1) Push 型情報と Pull 型情報

Web ページとは人が閲覧してくれなければ意味がない。その意味では Pull 型メディアといえる。Push 型メディアは E メールが該当する。最近流行の Blog の持つ機能の一つである RSS は、近々図書館サービスにおいて Push 型メディアになりうる可能性がある。

(2) Blog の機能について

Blog という語は、多義に用いられており、日記であることとまとめることもある。図書館の情報発信を考える時、Blog システムのトラックバックと RSS の 2 つの機能は注目に値する。RSS は要約のメタデータであり、必要な部分で最新のものだけを読むことができるソフトである RSS Reader を用いることで、図書館から利用者に情報を提供できる有力な Push 型メディアに成りうる可能性がある。

4. CMS (Content Management System) や Wiki などについて

CMS (コンテンツ管理システム) は、多くのタイプの情報コンテンツを管理、効果的に共有、活用のトータルシステムの意味である。今後、多くの有用なモジュールが開発されることで図書館の情報発信のためのツールとして注目すべき存在になる可能性を秘めている。また、Wiki は複数人が共同で Web サイトを構築する利用法を実現するツールであり、閲覧者が自由に記事の内容の追加・編集・削除を行うことが可能であるなど、従来の Web ページではない利用法が考えられるだろう。このようにシステム的にも図書館が使えるツールは、どんどん発展しており、図書館員は種々の一般的なツールへの目配りも必要であろう。

5.まとめ

自分たち自身の手で Web ページを利用して情報発信をする環境が技術的に出来ている。業務上で困っていたら、諦めるのではなく、技術的に何とかならないだろうかと考え、専門家も含め多くの人の意見を聞いてみる必要があるだろう。